ベーシック・スタディⅢ メディア・コミュニケーション研究報告

書籍ビジネスに未来はあるのか？ 93K102 青山トーマス

研究のきっかけ

1. 本を読むことが好きだから。読書好きの芦田愛菜が好きだから。
2. 地元の書店が閉店したから。
3. 本・雑誌を書店で購入する機会が減ったことに気づいたから。

受講生への問いかけ

最近、本・雑誌を購入しましたか？

いつ、どこで、どのような本・雑誌を購入しましたか？

書籍ビジネスの動向

1. 書店数・人口当たり坪数の減少

全国で1万店を切っている　店舗は大型化しても店舗数が減少している

出版流通学院「出版市場統計/書店の経営統計」

https://www.nippan.co.jp/ryutsu-gakuin/statistics/

1. 販売額の減少、出版数の低迷

90年代半ばから販売額が減少している　文庫本の販売額はこの3〜4年で激減している

ムック・文庫本の新刊点数は、2010年代前半までは増加していたが、この3〜4年で緩やかに減少している

全国出版協会「日本の出版統計」

https://www.ajpea.or.jp/statistics/

1. 出版社・出版取次業者の減少

2019年1〜8月の出版業の倒産数＝26件　すでに2018年の全体22件を上回っている

2016年3月に太洋社、19年7月に日本雑誌販売が破産申請した

東京商工リサーチ「2019年（1-8月）「出版業」の倒産状況」

https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20190927\_02.html

取次：本・雑誌を書店に配送する業者。出版社と書店の間を取り持つ企業。本・雑誌の問屋。日本出版販売（日販）とトーハンが日本の二大取次。

疑問

1. これから書籍ビジネスはどうなるのか？　書店はどうなるのか？
2. 書籍ビジネスには未来があるのか？　新たなビジネスモデルはあるのか？

事例1　東京・有隣堂の取り組み

台湾企業との共同店舗、本・雑誌以外の商品の販売

『ガイアの夜明け』　「大人が楽しむ！進化する日本橋シリーズ　東京新名所ウオーズ6弾」　テレビ東京　2019年10月8日放送回（BSテレビ東京 2019年10月21日放送回）

事例2　静岡・高久書店の取り組み

静岡県内での移動・出張販売、厳選した書籍の販売

『SBSスペシャル　本の伝道師』　静岡放送　2019年11月11日放送

事例3　蔦屋書店静岡本店の取り組み

静岡市の中心市街地の再開発地区に建設された「呉服町タワー」のテナントの一つ（2014年＝平成26年4月営業開始）

コーヒーショップの併設、早朝から深夜までの営業

注目点1　コラボレーションによる新たな価値の創造

異業種・多業種との交流、これまでに存在しない業態

本・雑誌以外の物品の販売、サービスの提供

注目点2　小売業としてのサービスの徹底

クレジットカード、キャッシュレス決済、ポイントサービスの導入

大規模な書架の設置、検索・取り寄せサービスの充実

お薦め、新作、話題作の陳列

注目点3　書籍ビジネスの使命の追求

書店空白地域への進出

地域社会の潤いの場として、知識・教養・文化の伝播と共有の場として

今後の研究課題

1. リアル書店・書籍でなければならないのか？

コンビニ、オンライン書店、電子図書で代替できるのか？

1. ビジネス以外の選択肢はあるのか？

公共図書館の役割は？

1. 古いメディア、コミュニケーション技術、情報通信サービスはなくなるのか？
ペーパーレスは実現するのか？　郵便や電話は衰退するのか？
2. 大都市でなければ書籍ビジネスは成立しないのか？

地方の中小都市では？　書店空白地域の実態は？